



会社説明会及び  
2009年10月期  
決算説明会資料

2010年1月7日  
株式会社 ミロク  
(証券コード 7983)



# 目次

- I. 会社概要 …… p.2
- II. 2009年10月期連結決算 …… p.14
- III. 2010年10月期連結業績予想 …… p.19
- IV. 2010年以降の当社の対応方針 …… p.24



# 会社概要



# 会社情報

- 社 名 株式会社ミロク(大証2部上場)
- 本社所在地 高知県南国市篠原537-1
- 代表者 代表取締役社長 弥勒 美彦
- 創業/設立 1893年2月/1946年7月(2003年5月 持株会社体制移行)
- 資本金 863百万円(発行済株式総数 15,027千株 2009年10月31日現在)

## ■ 事業内容及びグループ企業

セグメント名称	主な事業内容	グループ企業	
猟銃事業	猟銃の製造及び販売	◎ミロク製作所 ◎香北ミロク ※ミロク工芸	◎ミロク精工 ◎梶原ミロク
工作機械事業	深孔加工機・工具の製造及び販売	◎ミロク機械	◎MIROKU MACHINE TOOL INC.
自動車関連事業	自動車用ハンドルの製造及び販売	◎ミロク製作所	※ミロクテクノウッド
その他の事業	木工製品の加工及び販売	◎ミロク製作所	◎馬路ミロク

◎:連結子会社 ※:持分法適用の関連会社

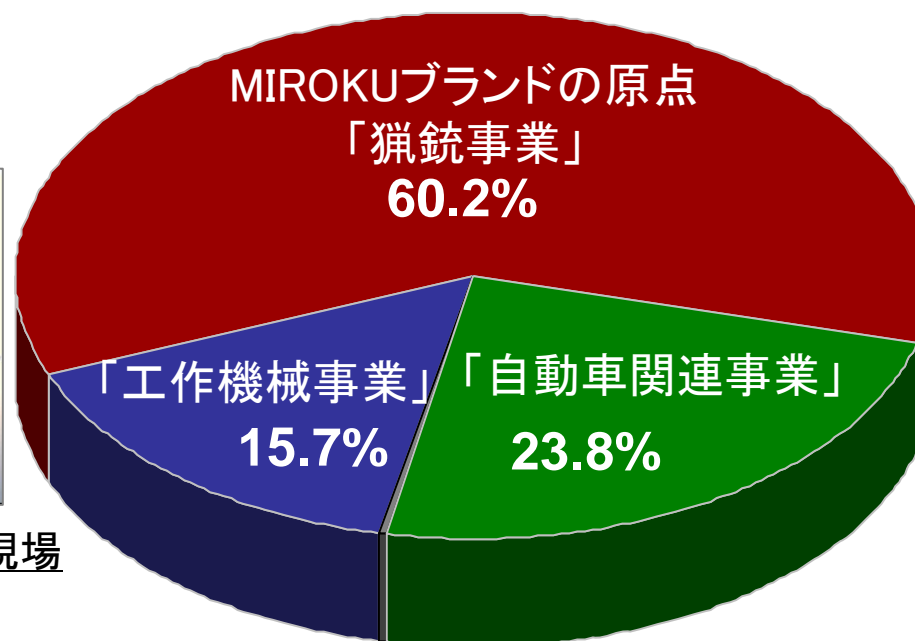
# MIROKUグループの特色：事業構成

1. 「猟銃の製造」が中核事業の一つ。わが国では珍しい事業構造。
2. 「猟銃づくり」の技術をベースに中核3事業へと多角化に成功。
3. 中核3事業の“強み”を活用した事業展開を推進中。

連結売上構成：11,928百万円(09/10期)



世界屈指の猟銃づくりの現場  
から生まれた事業

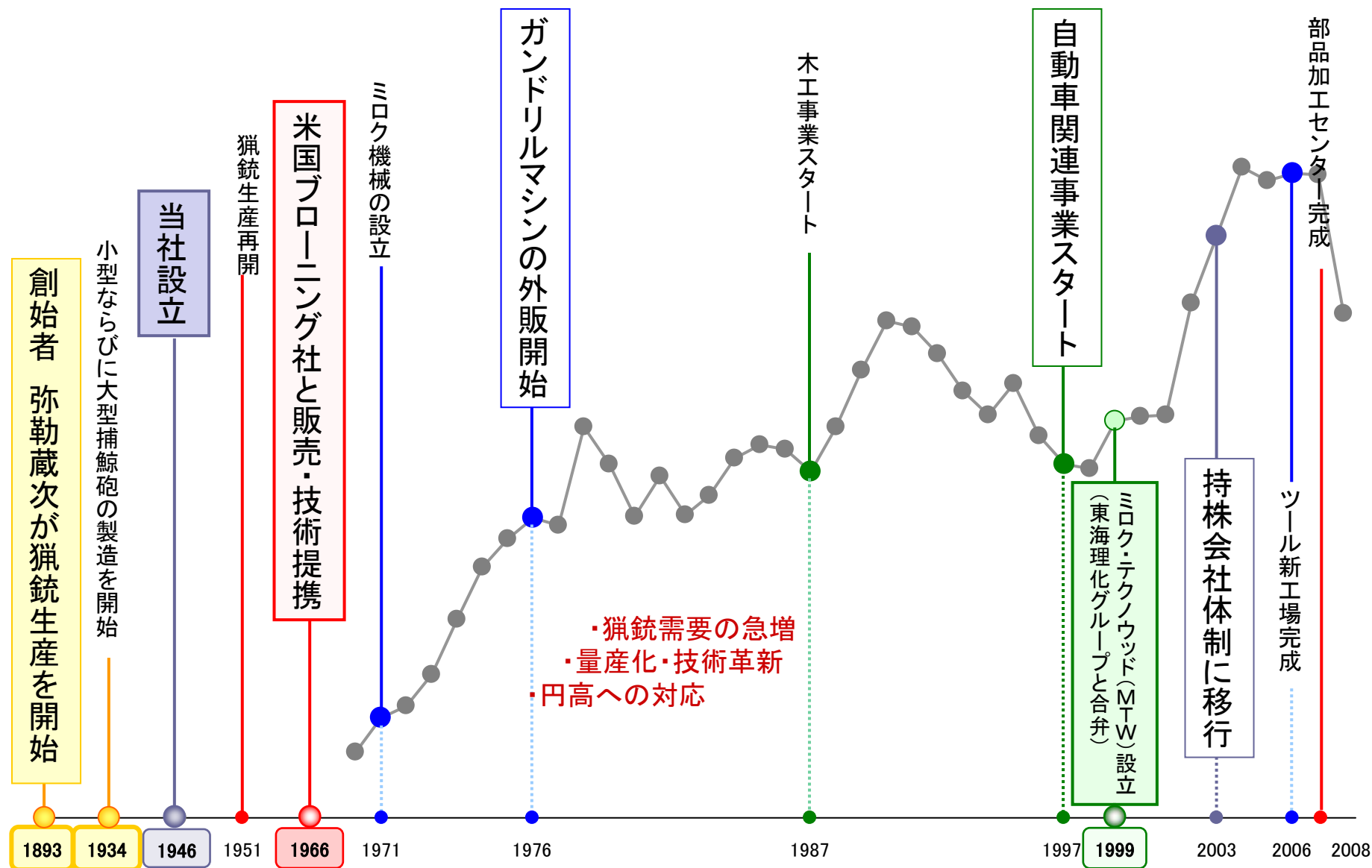


「その他の事業」0.3%



工業製品の代表「自動車」  
に活かされる“匠の技”

# MIROKUグループの特色：発展の軌跡

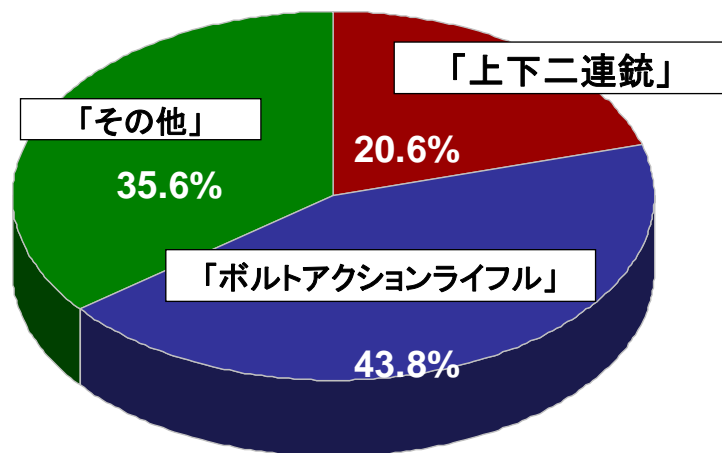


折れ線グラフは売上高の推移

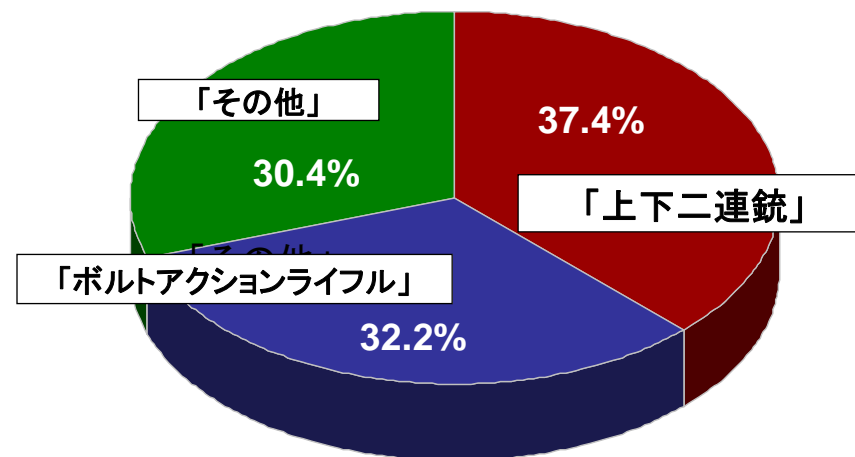
# 猟銃事業の特色と商品ラインナップ

1. 米国ブローニング社がビジネスパートナー。海外売上比率99%。
2. 機能的・堅牢性・芸術性が求められる「上下二連銃」に強い。
3. ライフルでは新製品「X-BOLT」の製造を開始。高評価を獲得。

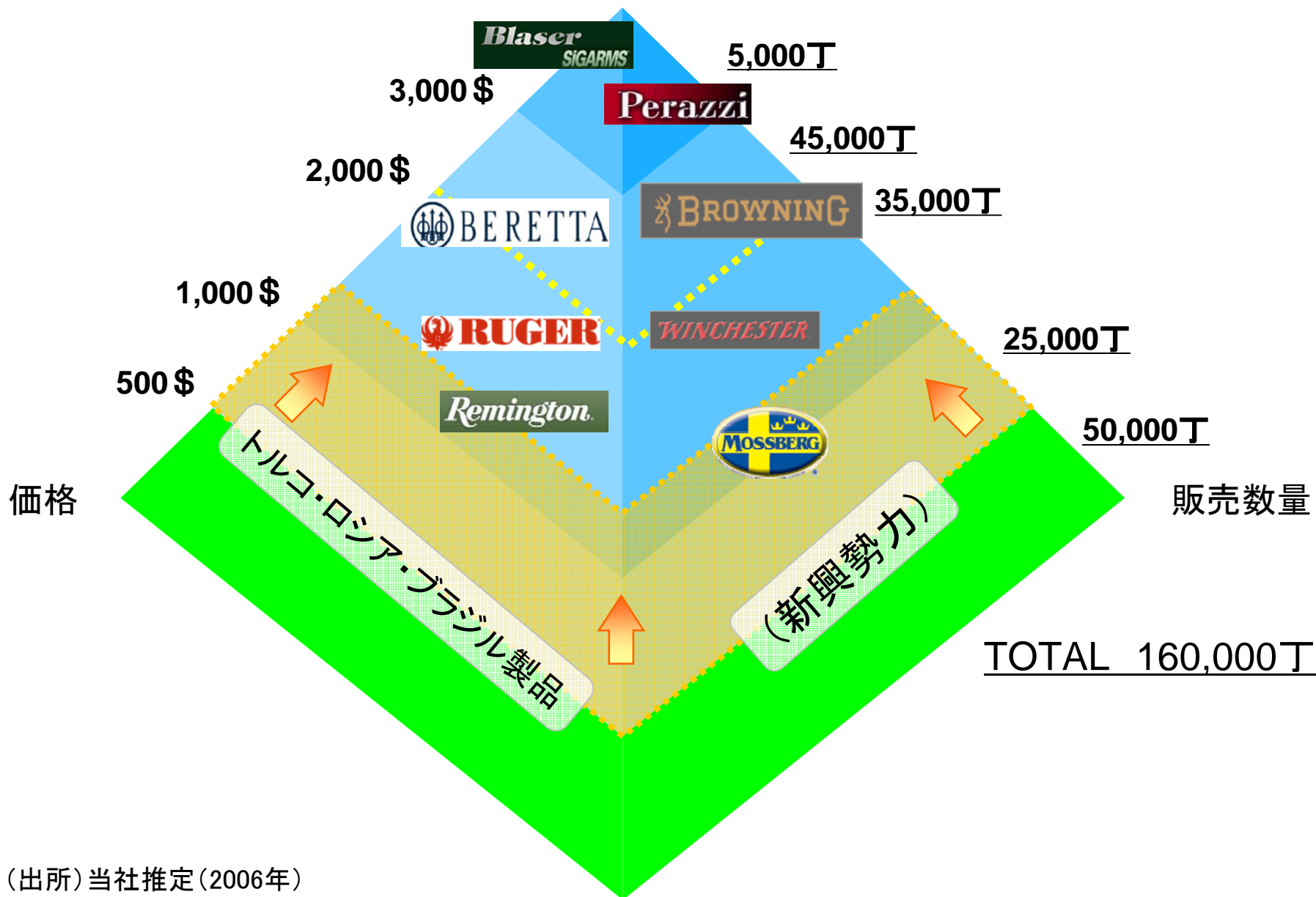
販売数構成: 14万丁強 (09/10期)



売上構成: 7,212百万円 (09/10期)



# 上下二連銃(ショットガン)の市場構造(米国の場合)



(出所) 当社推定(2006年)

# グローバル展開を支える「MIROKUの猟銃づくり」

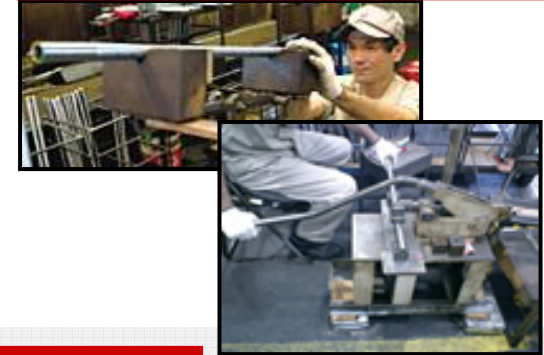
堅牢な銃床を作る目止め・磨き



銃身の孔あけ



熟練技術による曲がり直し



木材加工技術



Citori Privilege

深孔加工技術

彫刻技術

金属接合技術  
金属の精密加工技術



猟銃を個性的に飾る彫刻技術

- ・手彫り
- ・エッチング
- ・ローラー彫刻
- ・レーザー彫刻



熟練技術による仕上げ・調整・仮組み



- ・削り出し
- ・ゼロ嵌合

高圧に耐える銃身

金属精密加工技術・銀ろう付け



# 猟銃づくりの要素技術の活用

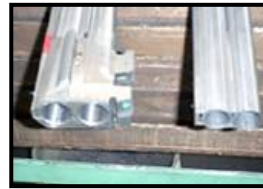
木材加工技術

堅牢な銃床を作る目止め・磨き



金属接合技術  
金属の精密加工技術  
彫刻技術

彫刻・銃身粗磨き・銀ろう付け



深孔加工技術

銃身の孔あけ



自動車関連事業

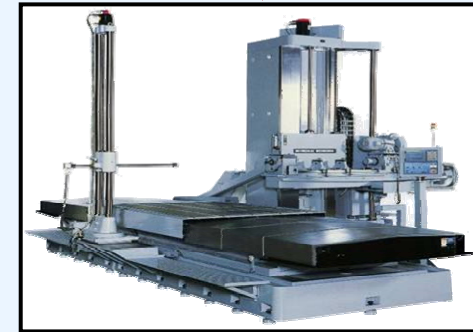


純木製ハンドル、純木製シフトノブ

工作機械事業



ツール(ガンドリル)

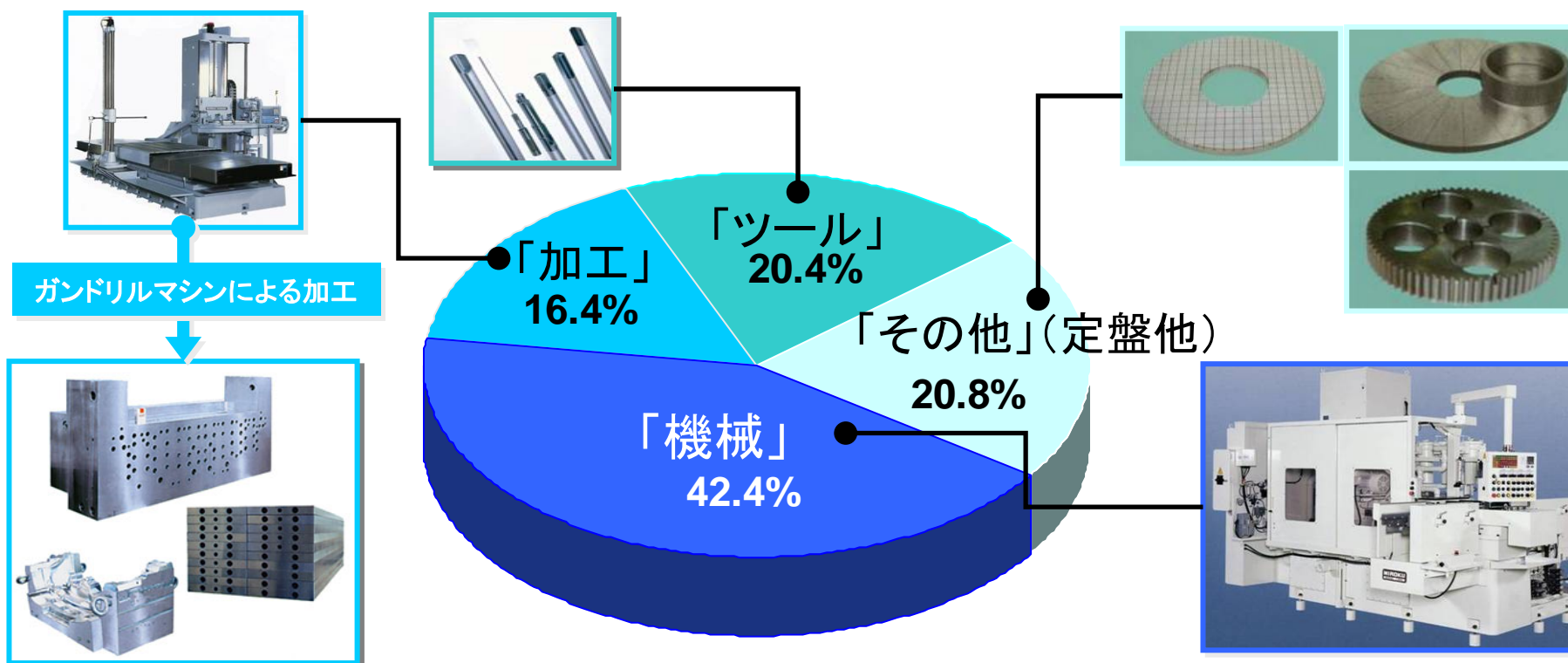


深孔加工機(ガンドリルマシン)

# 工作機械事業の事業内容・特色①：全体構成

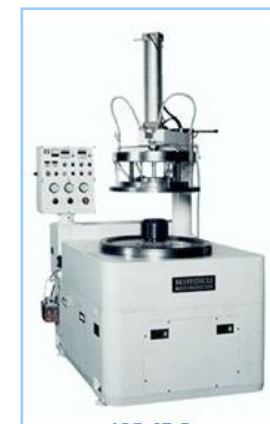
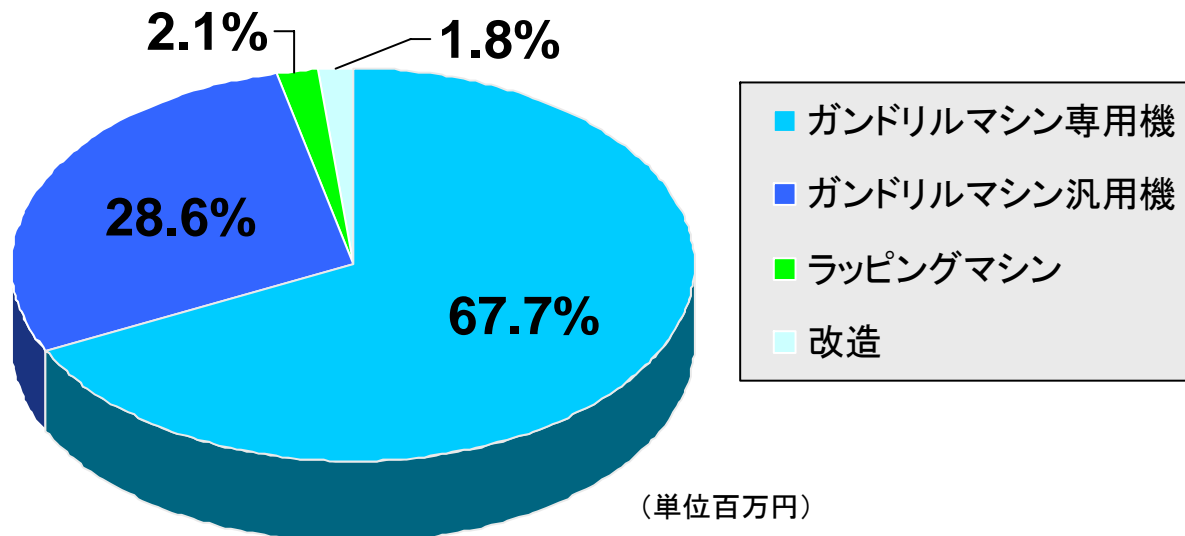
- 事業の支柱は特殊な深孔加工機「ガンドリルマシン」の製造販売。
- 主要販売先は「自動車関連業界」、取引先の6割以上を占める。
- 今後「機械部門」の廉価版及び「加工部門」に注力していく。

売上構成：1,876百万円(09/10期)



# 工作機械事業の事業内容・特色②：機械部門

## 機械部門の売上構成(09/10期)



ラッピングマシン



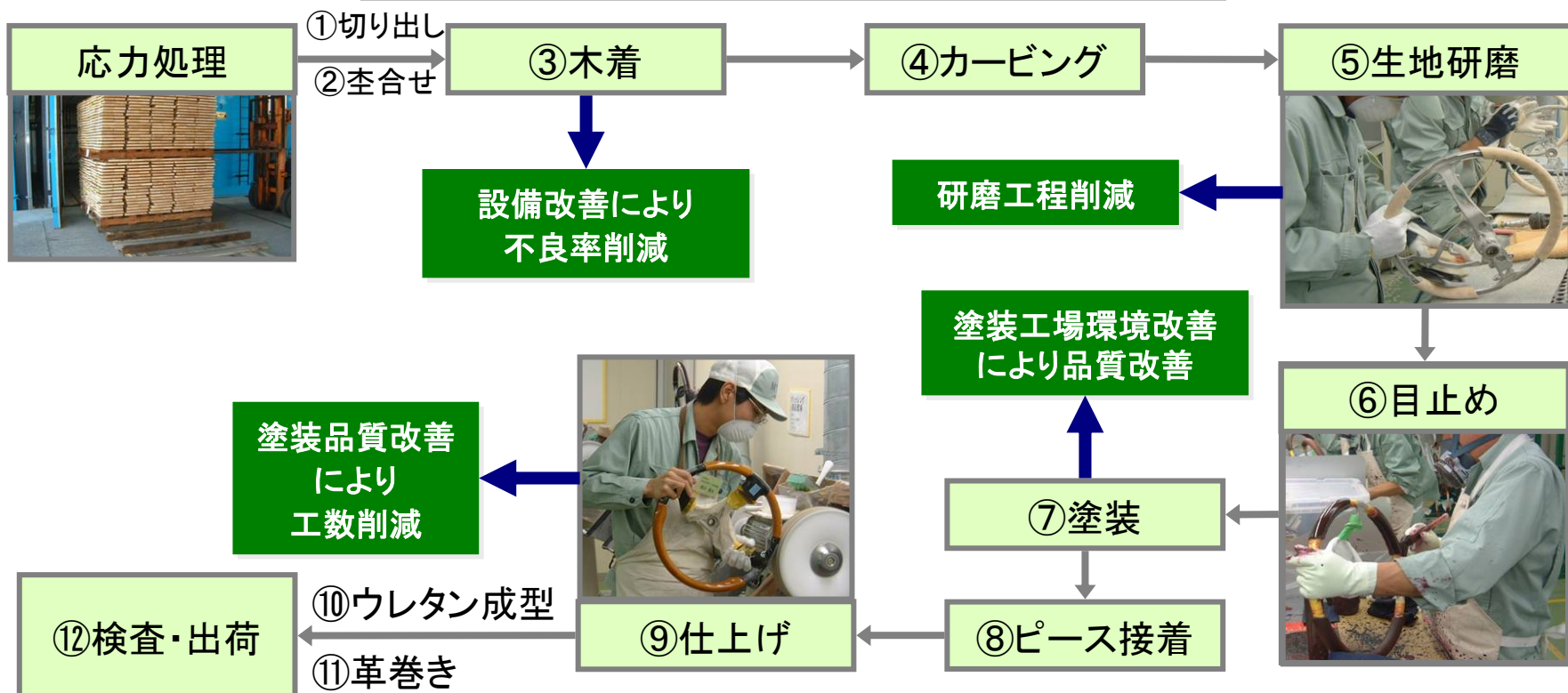
ガンドリルマシン

- ガンドリルマシン専用機：顧客のニーズ・仕様に合わせて製作する
- ガンドリルマシン汎用機：定められた仕様規格に合わせて製作する
- ラッピングマシン：大径シリコンウェハー、ハードディスク等の高精度研磨機

# 自動車関連事業の事業内容・特色

1. 「純木製ハンドル」が主力。美観、強度、触感に優れた逸品。
2. 工業“技術”と匠の“技”が融合。
3. 東海理化Gとの合併会社MTWが製造。トヨタ生産方式を実践。

## 主力製品「純木製ハンドル」の製造工程



# ミロクグループの“モノづくり”と“モノづくりの基本理念”





## 2009年10月期連結決算



# 連結決算概要

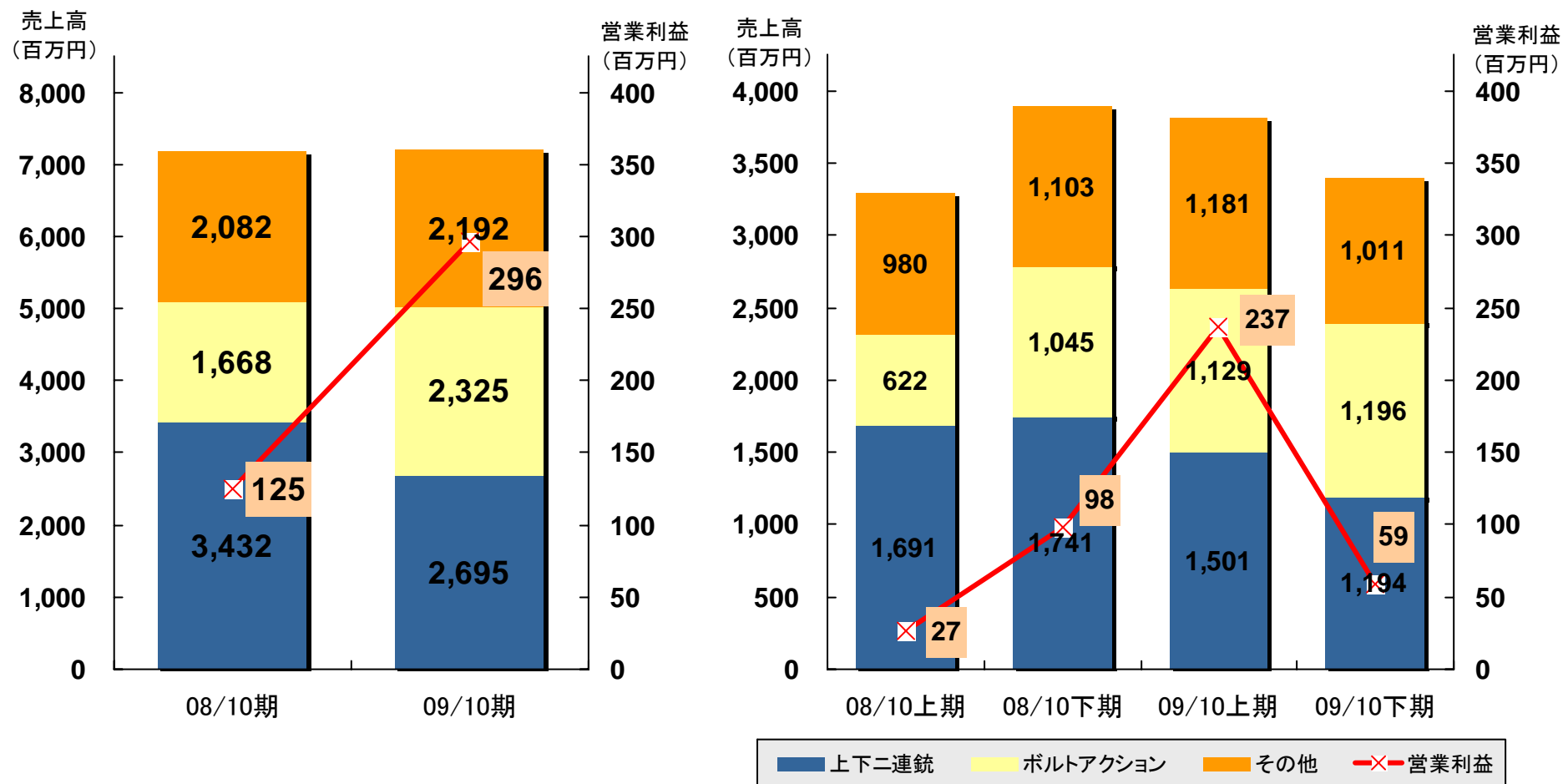
(百万円、%)

	08/10期	09/10期	
			前年同期比
<b>売上高</b>	15,223	11,928	78.4
猟銃事業	7,182	7,212	100.4
工作機械事業	4,002	1,876	46.9
自動車関連事業	4,028	2,853	70.8
<b>営業利益</b>	705	30	4.3
猟銃事業	125	296	236.8
工作機械事業	828	▲53	—
自動車関連事業	27	23	85.2
<b>経常利益</b>	967	242	25.0
持分法投資利益	177	26	14.9
<b>当期純利益</b>	556	226	40.6

▶ 猟銃の利益は改善したが、工作機械が不振。売上、利益ともに大幅に減少。

✓ 営業利益では猟銃事業が前期比倍増したが、工作機械事業が赤字となった。

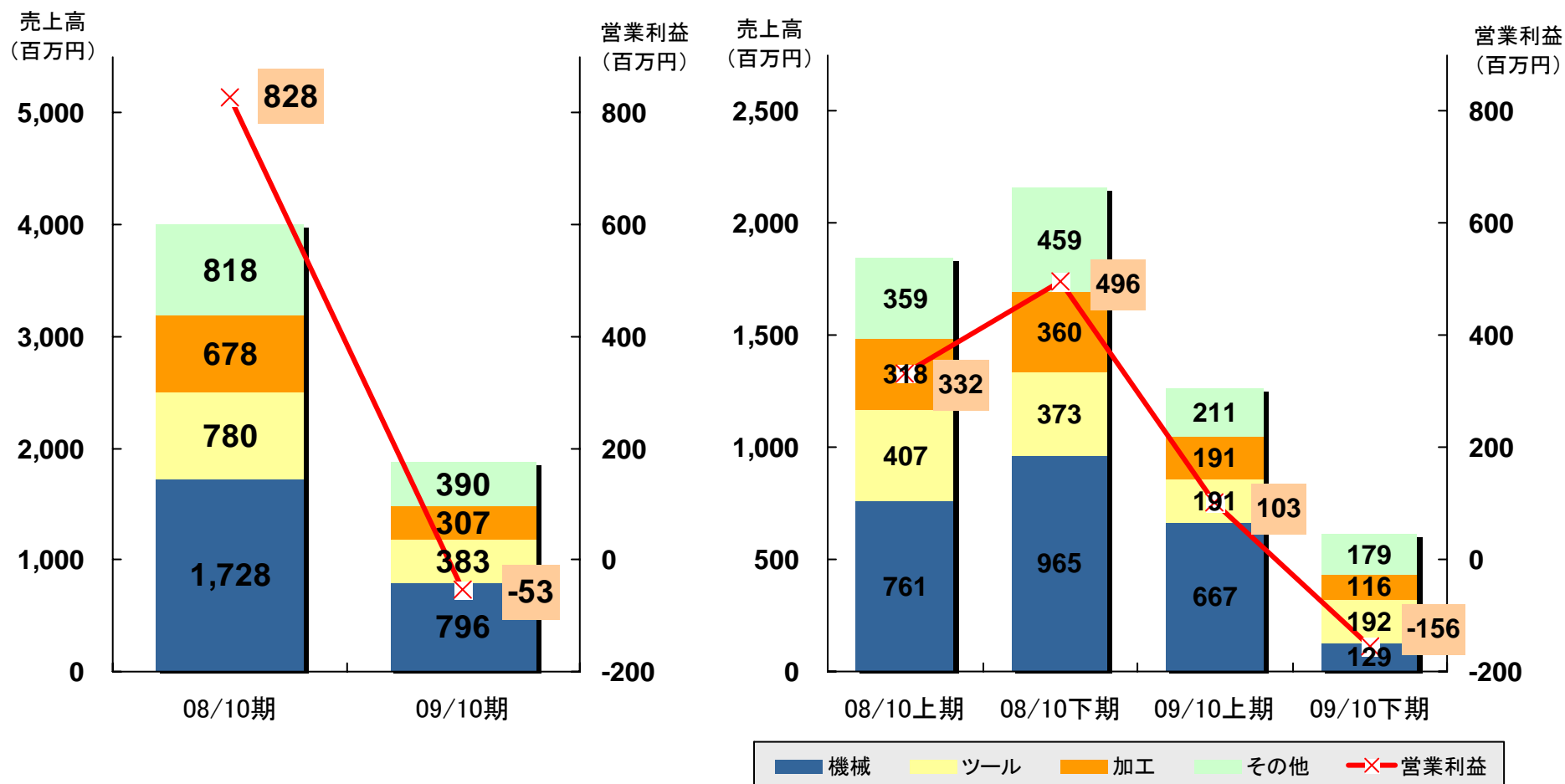
# 猟銃事業



▶ ロスコストの低減や経費削減活動により、営業利益は前年度比倍増。

✓ 09/10下期は、上下二連銃を中心に需要が減少、売上・営業利益ともに前年同期を下回った。

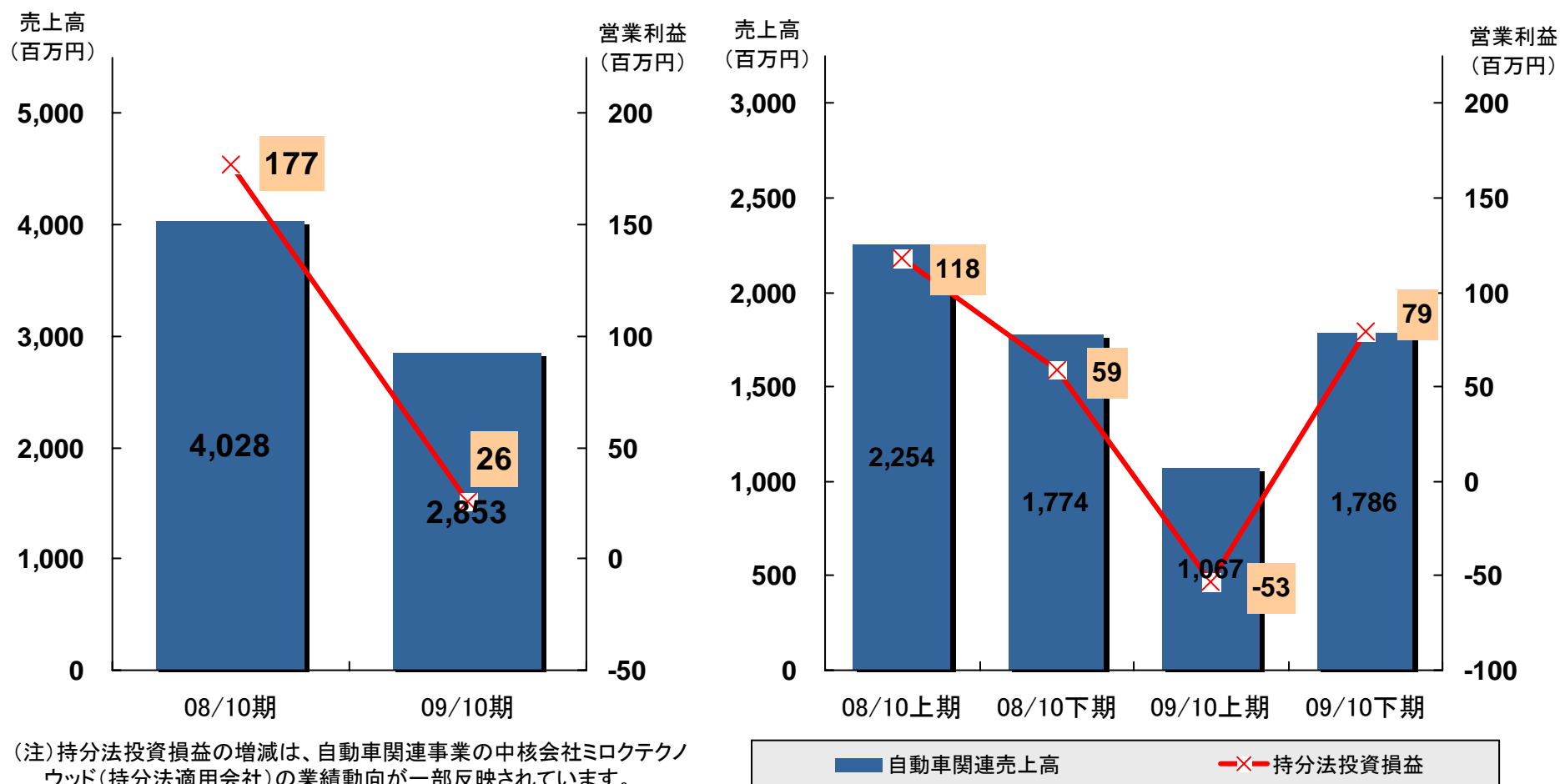
# 工作機械事業



▶ 売上が前期に比べて半減、固定費削減で補い切れず、通期で営業損失。

✓ 機械部門の下期落ち込みが大きく、ツール部門及び加工部門も低迷。

# 自動車関連事業／持分法投資損益(4社合計)



▶ 上期は大きく落ち込むが、下期の回復とコスト削減活動により黒字を確保。

✓ 下期には在庫調整も終了し、買換え支援策の効果もあり売上・利益とも急回復。



## 2010年10月期連結業績予想

---

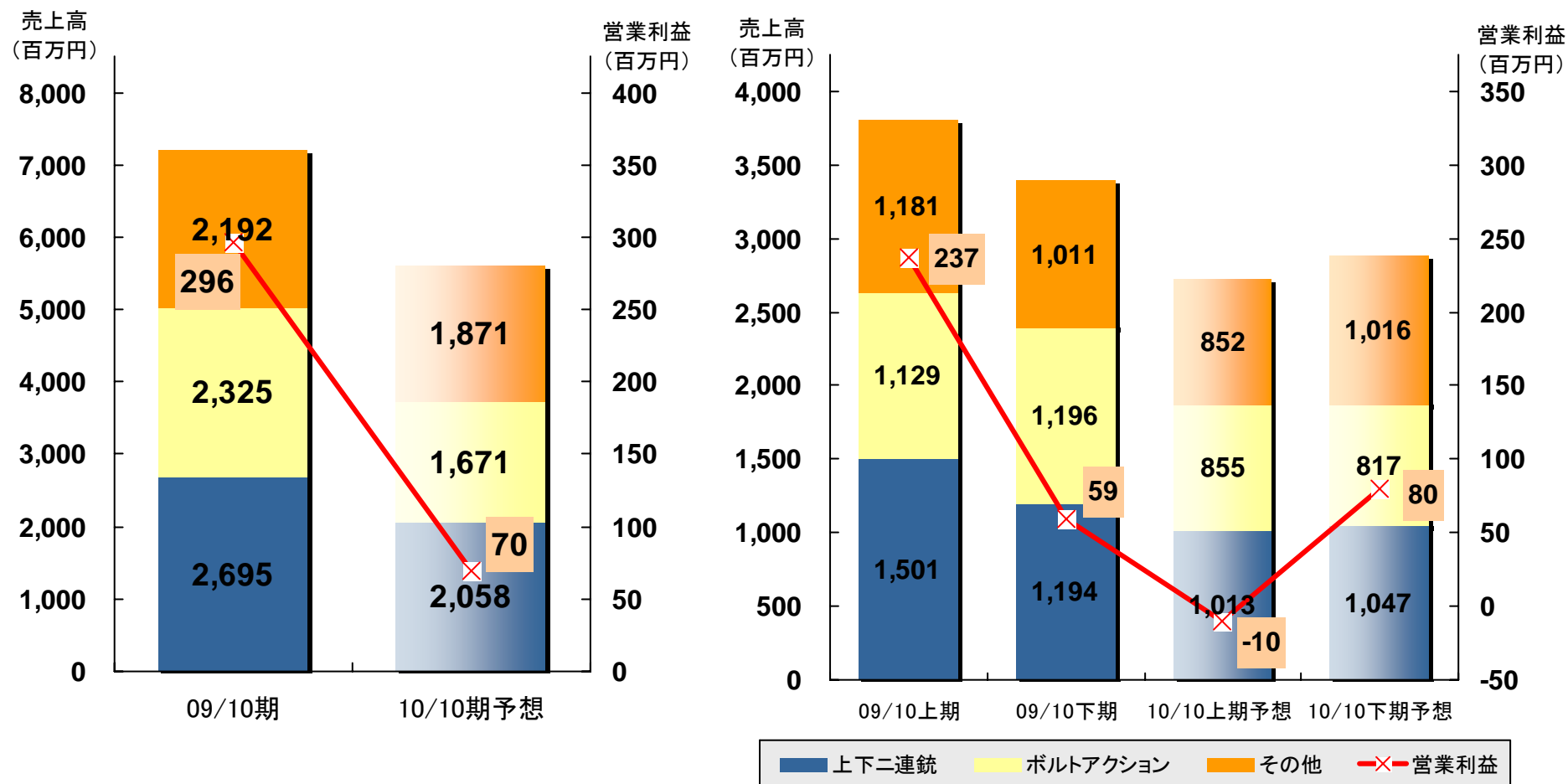


# 連結業績予想

(百万円、%)

	09/10期 実績	10/10期	
		予想	前年同期比
売上高	11,928	10,740	90.0
猟銃事業	7,212	5,600	77.6
工作機械事業	1,876	1,550	82.6
自動車関連事業	2,853	3,570	125.1
営業利益	30	▲460	—
猟銃事業	296	70	23.6
工作機械事業	▲53	▲270	—
自動車関連事業	23	30	130.4
経常利益	242	▲70	—
持分法投資損益	26	80	307.7
当期純利益	226	90	39.8

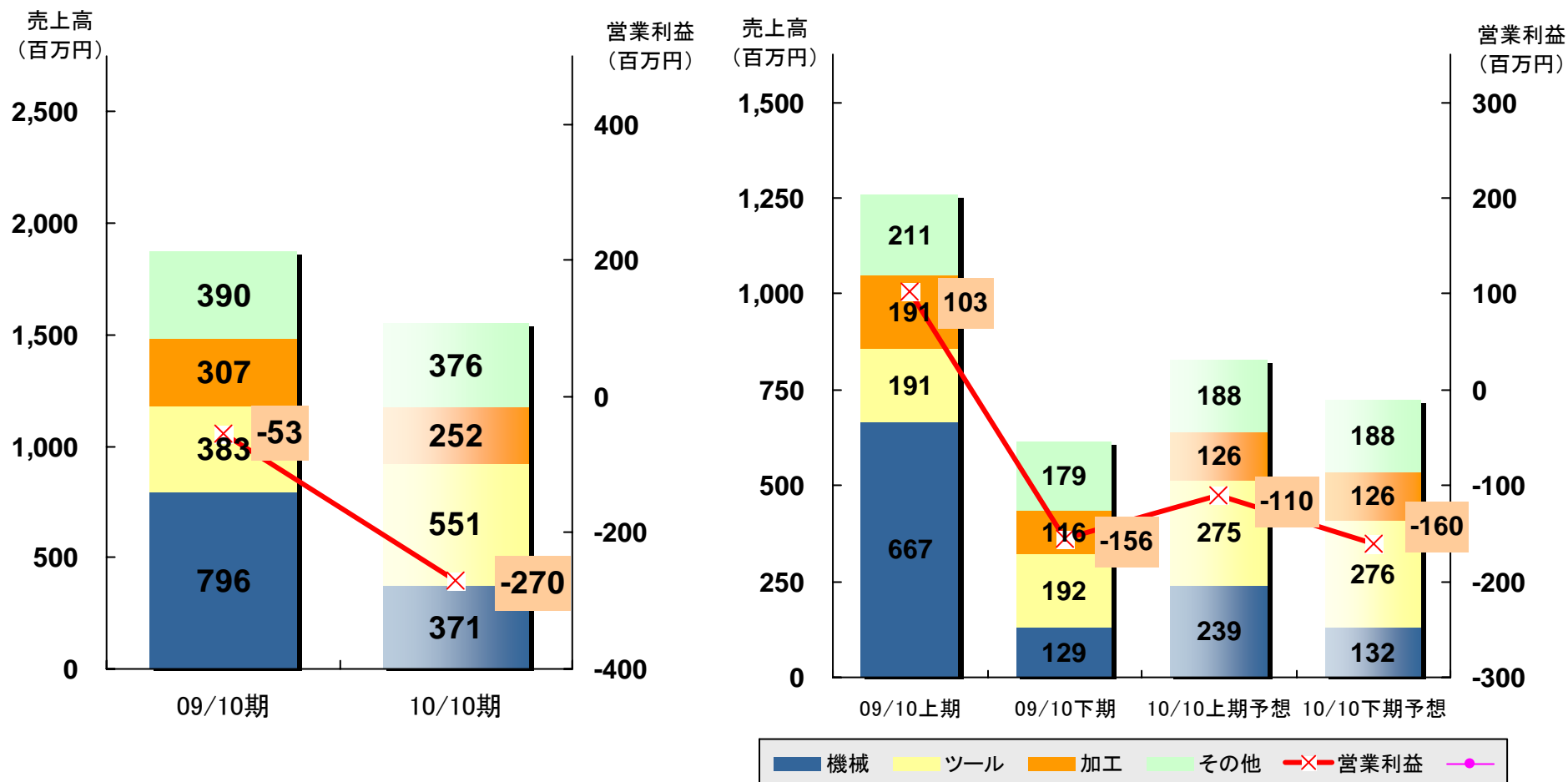
# 猟銃事業



▶ 下期に採算改善を図るが、売上減少が大きく、通期営業利益の減少を予想。

✓ 売上高・利益ともに前年と比べ大きく減少するが、下期は上向きに転じる予想。

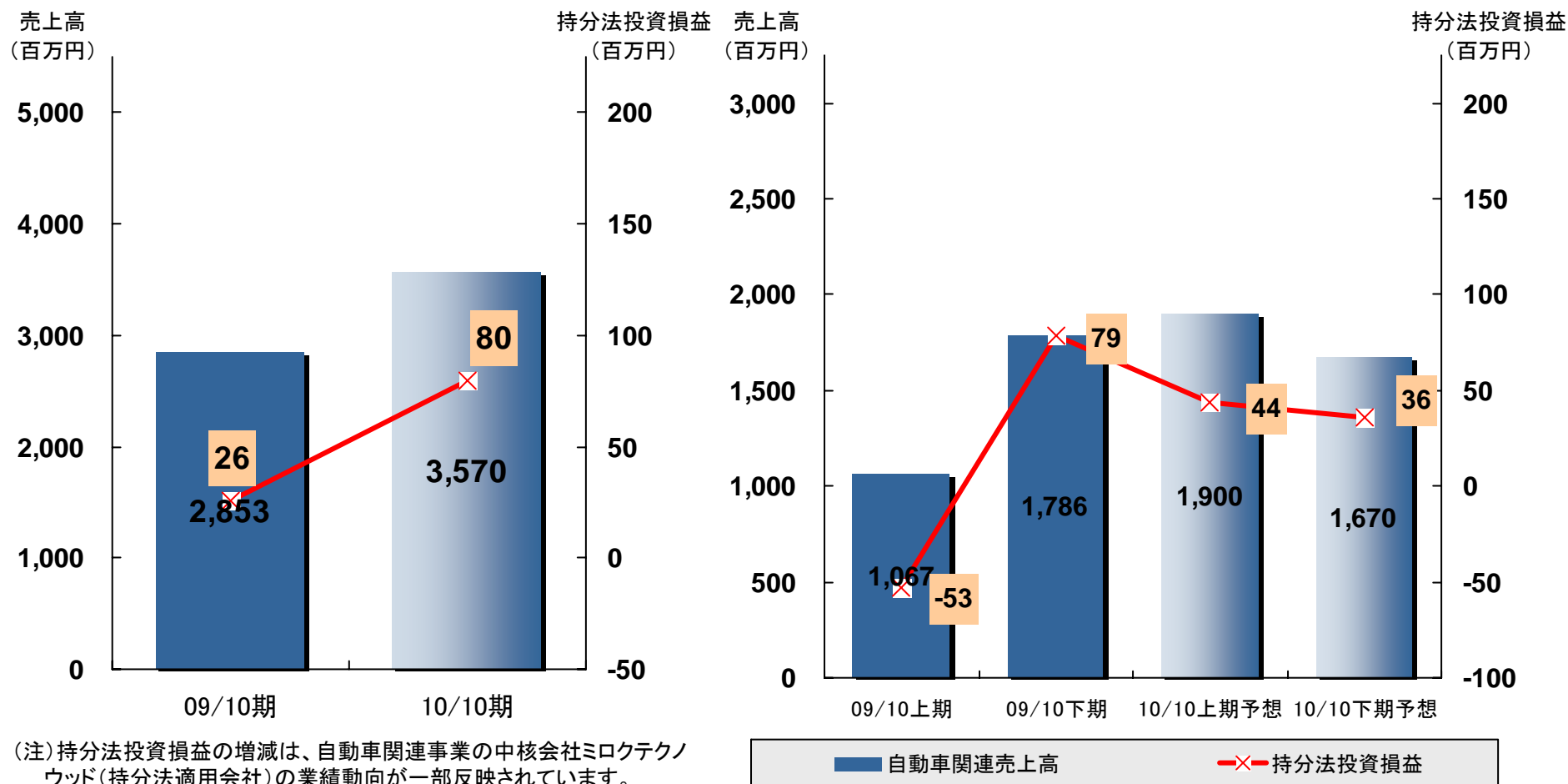
# 工作機械事業



▶ ツールは底打ちの予想だが、機械部門は減少、ボトム圏での推移を予想。

✓ 機械部門は、上期が前年同期比36%、下期が同102%。今期一杯は低水準が続く見通し。

# 自動車関連事業／持分法投資損益(4社合計)



▶ 回復基調にあるものの、下期の不透明感を考慮し、売上高は前期比125%。

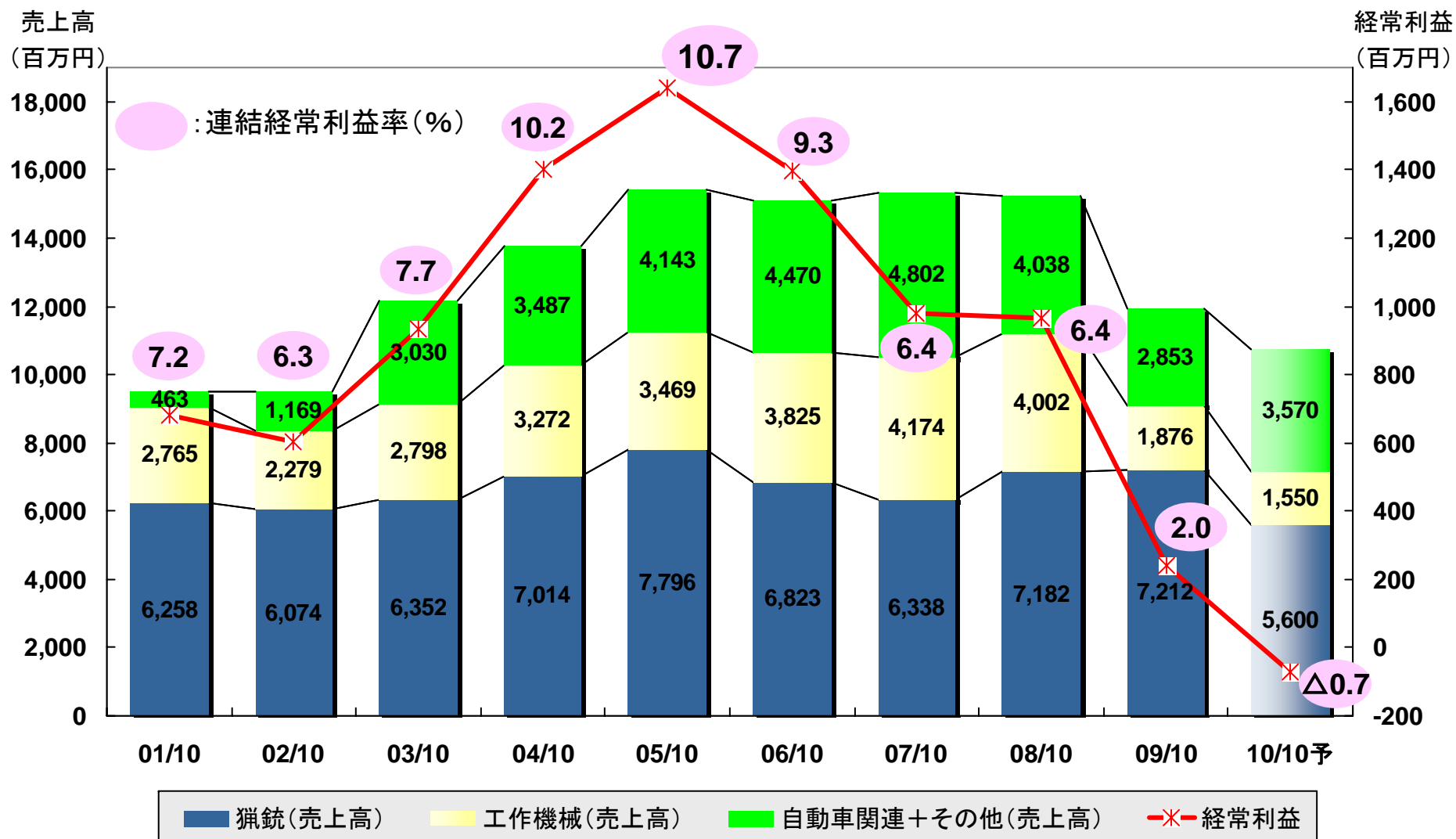


## 2010年以降の 当社の対応方針



# 連結業績の推移

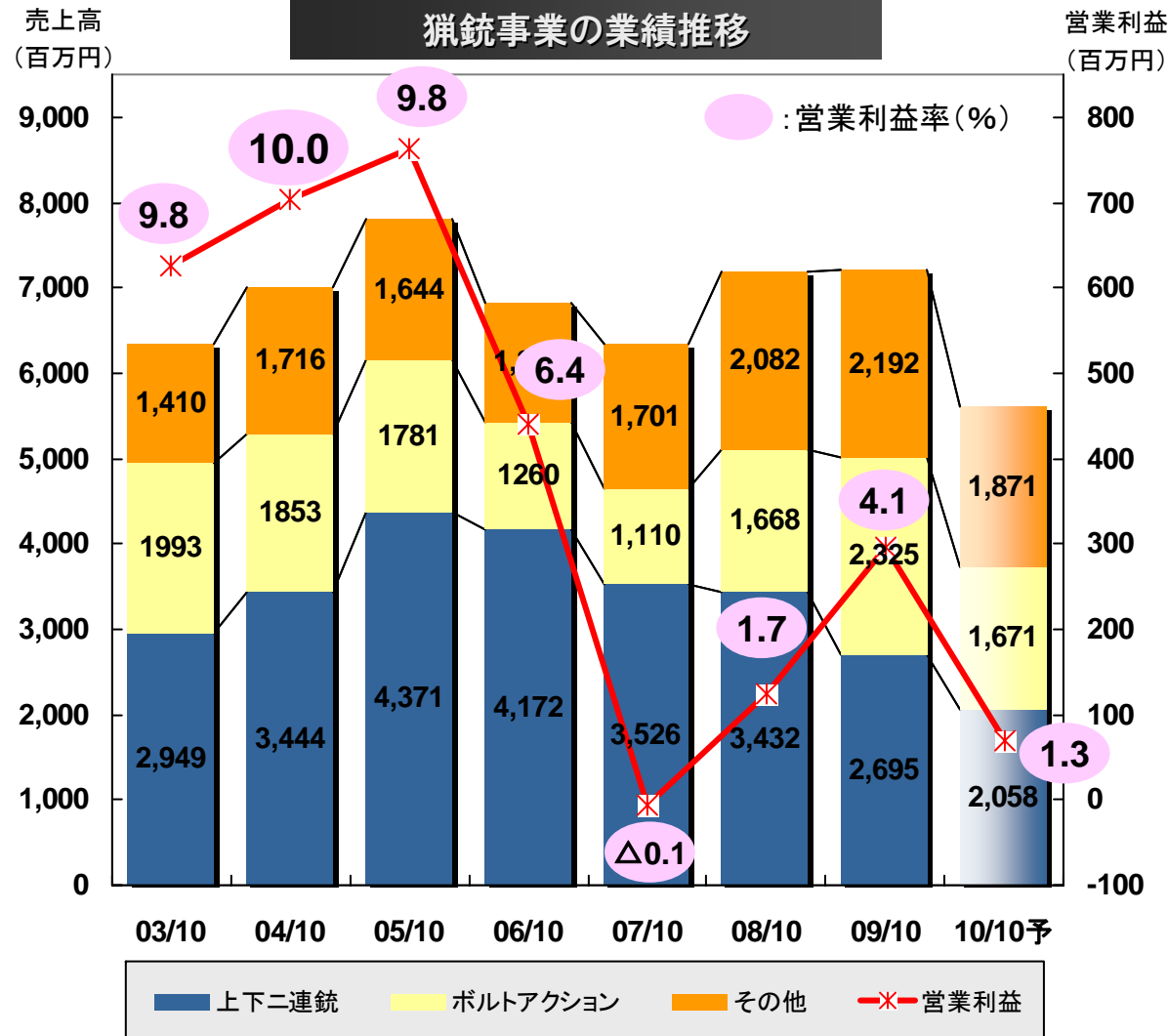
利益率低下が続く。収益体質の抜本的改革による利益率改善が急務。



(注) 事業別売上高にはセグメント間の内部売上高又は振替高を含む

# 事業別業績①：猟銃事業

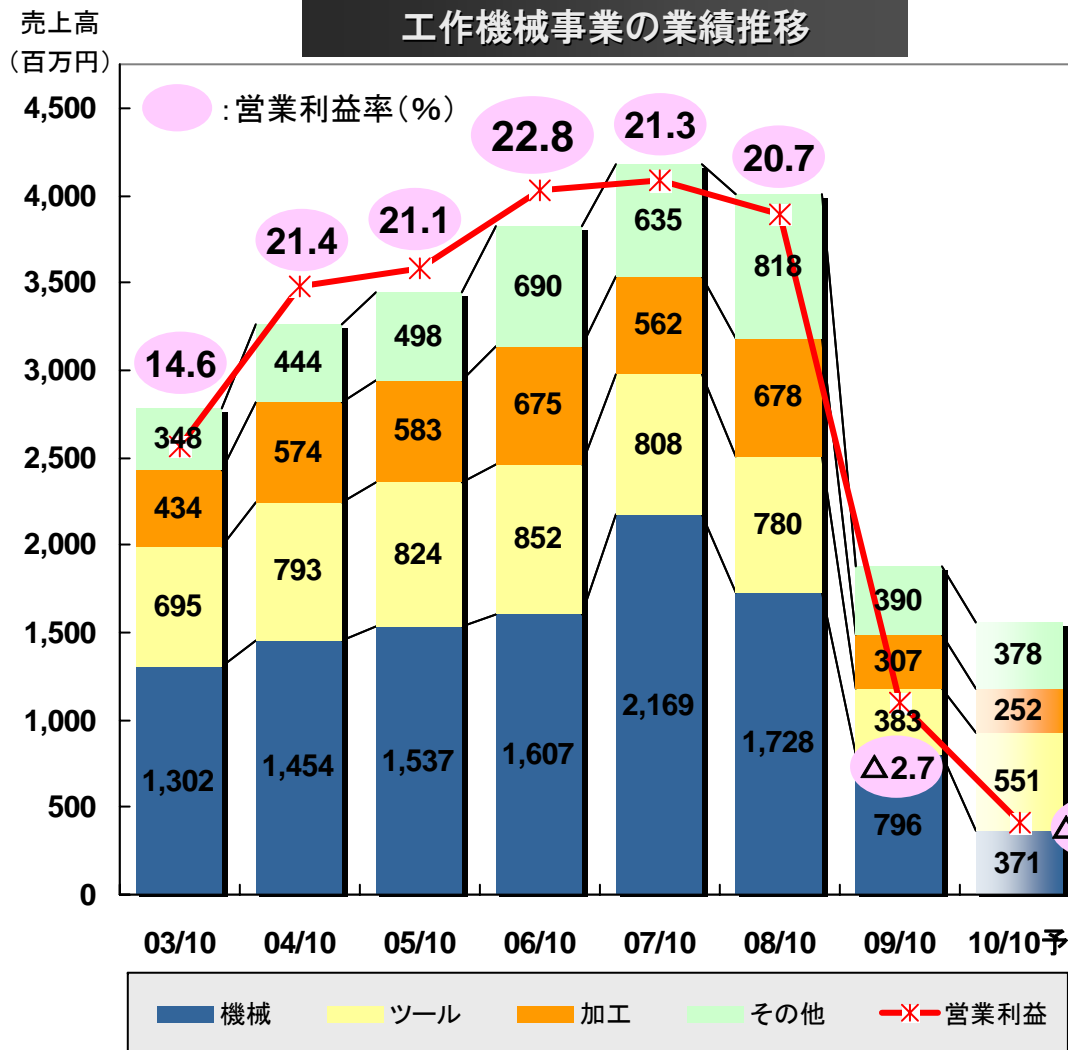
ボルトアクション需要の減少が予想され、利益率は再び悪化。



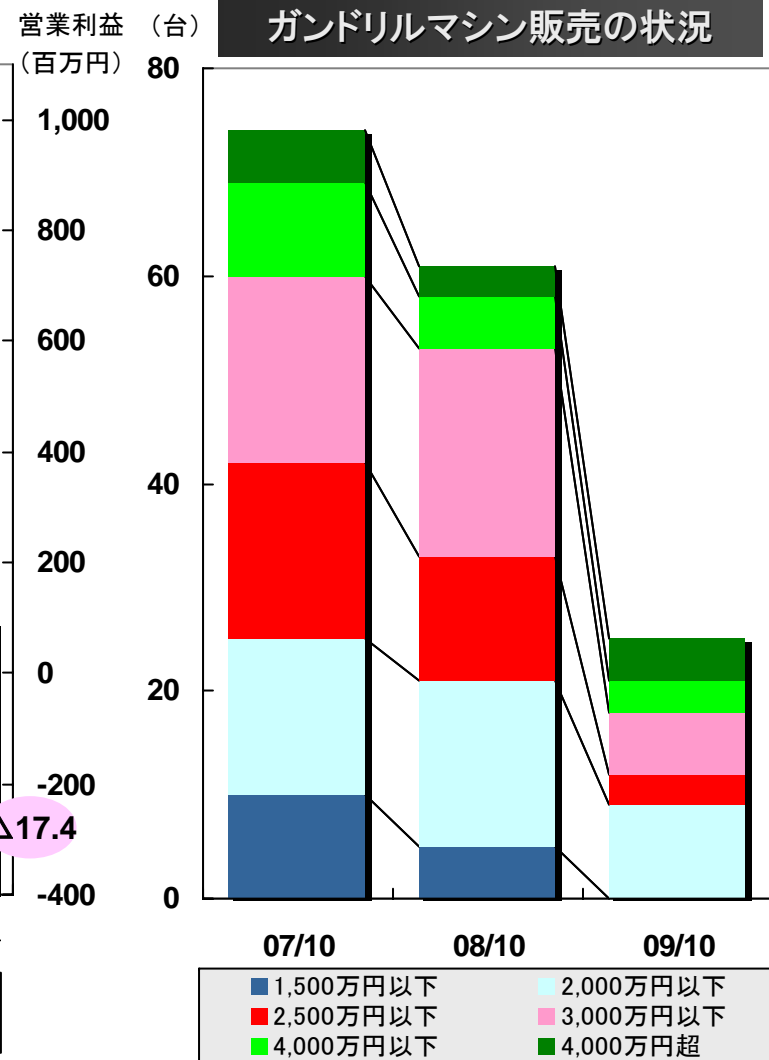
(注)06/10までボルトアクションはその他に含む。

# 事業別業績②：工作機械事業

機械需要の急減、黒字確保難しく、次の需要回復を捉える対応が課題。



(注) 事業別売上高にはセグメント間の内部売上高又は振替高を含む



# 事業別対応方針

## 猟銃事業

### 安定した収益性を確保するための損益分岐点の引き下げ

- ✓ ブローニングブランドを支える全社的品質管理体制の構築
- ✓ 商機を逃さないタイムリーな生産・納品体制の確立
- ✓ 顧客ニーズに見合った製造コストの実現

⇒円高(1ドル80円台)の長期化を視野に入れた改革の検討を開始。

## 工作機械事業

### 需要構造の変化を前提とした事業構造改革の推進

- ✓ 低価格・高収益モデルへの転換、原価低減ノウハウの蓄積強化
- ✓ 中国を中心とした市場への本格的展開
  - ✓ 市場ニーズにマッチした価格帯モデルの開発・投入
- ⇒「品質・機能」への最適対応による需要と利益の創造。
- ✓ 加工部門の拡充

## 自動車関連 事業

### 変化する市場環境の中で、常に勝ち抜く企業体質の構築

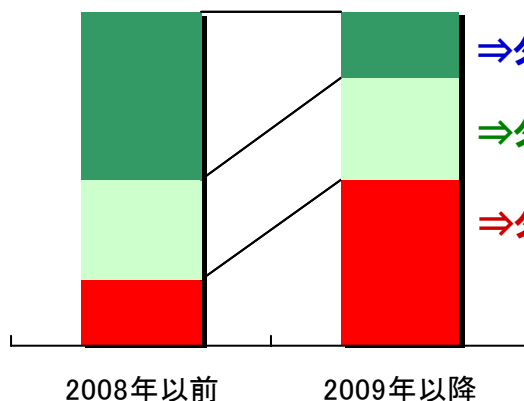
- ✓ 大幅な原価低減活動
- ✓ 新機能・新素材に関する研究開発の強化、新商品の創出

# 補足説明：工作機械事業①機械部門の環境変化と対応

▶ 最終製品需要の構造変化(新興国シフト)。世界的なデフレ傾向。



ガンドリルマシンに対する市場ニーズの変化(イメージ)



⇒タイプ①「コストパフォーマンスが高ければ、高品質・高機能・高価格でも構わない」

⇒タイプ②「予算枠ギリギリで品質の高いもの、機能に優れているものを選ぶ」

⇒タイプ③「とにかく価格重視。必要最低限の品質・機能で構わない」

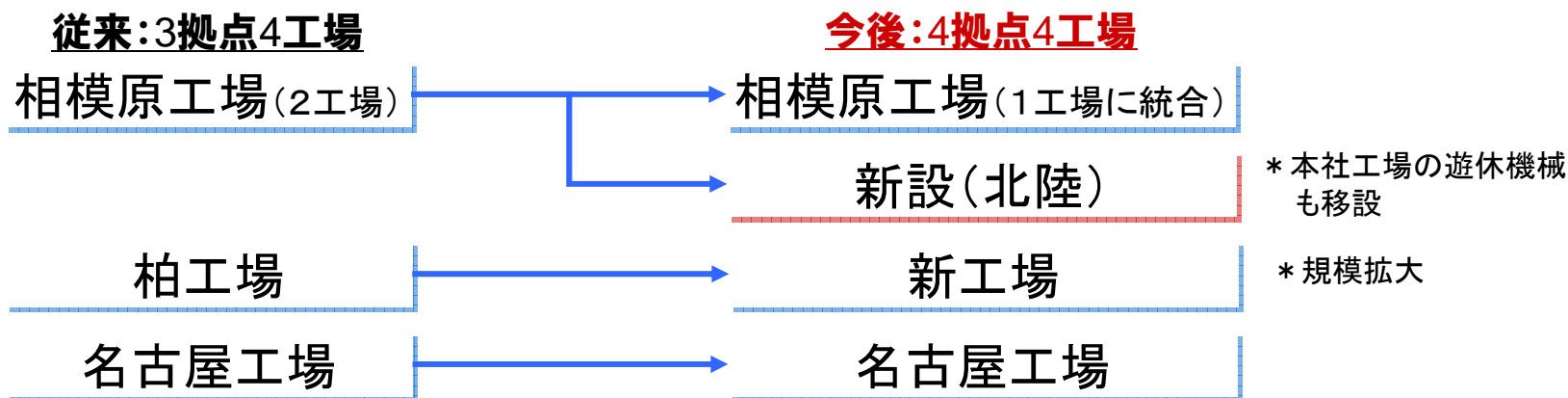


当社の対応

- 低価格モデルの開発(⇒機能十分・価格半分・コンパクト化)
- 情報力＋行動力＋交渉力⇒材料・部品の最適調達

# 補足説明：工作機械事業②加工部門の拡充

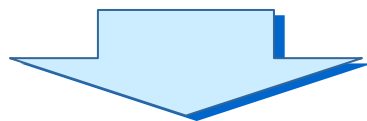
## エリア拡充(加工工場の新設)



## 今後の需要開拓

- 建機・工作機械・IT関連に力点を置いた受注活動を展開
  - ✓ 油圧シリンダー・工作機械部品・液晶テレビ用金型

世界的不況、環境変化に適応すべく  
構造改革を行い、事業の再構築を果たす



「連結経常利益率5%」を目標に、収益改善を図る



(ご注意)

本資料の業績予想は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。

